

初任者研修

(初任者研修担当 賀屋 陽子)

1 初任者研修のための全体計画

(1) 方針

初任者に、適切な指導・助言をし、学校全体で温かく支援していく。
初任者研修を通して、職員の研修意欲を高め、学校全体を活性化させる。
校内研修と関連させながら研修を進めていくように留意する。

(2) 研修内容及び研修計画

校内における初任者研修

ア 研修時間は、週6時間、年間180時間以上とする。

A 初任者は、指導教員が初任者の学級で行う授業や他の教員の授業を参観する。

B 指導教員は、初任者の授業を参観する。

C 初任者と指導教員が研修する。初任者の学級は、他教科の教員が授業をする。

イ 180時間のうち90時間程度は、授業参観、授業研究など授業に関する研修を行う。

校外における初任者研修

- ・ 研修日数は25日。
- ・ 研修は、原則として金曜日に計画する。

実施上の留意点

- ・ 校内研修が計画通り実施できない場合は、他の曜日に実施する。
- ・ 研修時に初任者の学級が自習にならないように配慮する。

| | | |
|---------|-------|------|
| 初任者 | 原田 美沙 | 4年2組 |
| 初任者 | 原田 守 | 5年2組 |
| 校内指導教員 | 國廣 尚美 | 教務主任 |
| 拠点校指導教員 | 賀屋 陽子 | |

| | 月曜日 | 水曜日 |
|-----|-------|-------|
| | 原田美教諭 | 原田守教諭 |
| 1校時 | A | A |
| 2校時 | B | B |
| 3校時 | B | B |
| 4校時 | C | C |
| 5校時 | C | C |
| 6校時 | C | C |

2 初任者研修の取組

(1) ねらいと内容

教師としての心構えや態度を身に付ける。

社会人としてのマナー 教師としての構え 児童に対する接し方
保護者への対応 職場での報告・連絡・相談

授業作りと学習指導の基本を学ぶ。

授業のねらい 発問と指示 板書 学習過程 学習形態 ノート指導
指導計画 個に応じた指導 評価 家庭学習

学級経営と生徒指導の基本を学ぶ。

児童理解 基本的な生活習慣 集団づくり 学級組織 教室環境 教育相談
教師の仕事術を覚える。

学習指導案の作成 通知表・指導要録の作成 文書作成 記録整理

(2) 取組の実際と配慮事項

初任者研修を校内研修に位置づけ、全校教職員で直接初任者に指導していく場を設けた。研修が円滑に進むよう、時間調整・連絡に気を配った。

ア 授業参観・・・初任者に授業ならびに教室経営を見せ、学習指導や学級経営について指導・助言をする。

イ 授業研究・・・初任者の授業を見て指導・助言をする。

ウ 各種研修・・・校務分掌や教科の主任がテーマに沿って指導する。

定期的に学習指導や学級経営などについて振り返りの場を設けることで、初任者の悩みや課題に応じた助言や相談活動が行えるよう配慮した。

学年主任や各主任は勿論、管理職やサポート担当教諭との連携を大切にしながら、初任者をさまざまな角度から支援していけるよう配慮した。

研修日に限らず、すべての機会を研修の機会ととらえ、先輩教師から学ぶ姿勢を大切に。職員室での会話や情報交換の中から学ぶことがたくさんあった。

3 初任者の実践

(1) 研究テーマ

原田美沙教諭

自分の考えを豊かに表現できる児童の育成
～ 話す力・聞く力を育てるための授業づくり ～

原田守教諭

自らが主体的に考え、取り組もうとする児童の育成
～ 問題解決学習を中心とした学習を通して ～

(2) 授業研究会

平成20年1月28日(月)2校時

4年国語科「くらしの中の和と洋」

指導者 教諭 原田美沙

平成20年1月30日(水)2校時

5年理科「もののとけ方」

指導者 教諭 原田守

(3) 研究テーマに対する取組や授業研究会・その他の実践の報告は、「初任者研修のまとめ」冊子及び「初任者研修の記録」ファイルをご覧ください。

4 初任者研修を振り返って

この1年間、初任者研修の担当となったことで、私自身にとっても有意義な研修の機会をいただいたと感じている。新たに学んだり教材研究を深めたりすることも多く、これまでの実践を振り返り、自分の教育観を見つめ直すよい機会となった。

また、先生方には授業参観、研究、研修は勿論、様々な場面で指導や支援をしていただいた。多くの教育実践や研究成果とともに、先生方の教育観や人間性にふれることができたことは、初任者にとってかけがえのない財産になるであろう。心から感謝の意を表すと同時に、これからも共に研鑽し合う教員集団でありたいと願う。